

岡山大学教育学部附属学校園一貫教育

研究の概要

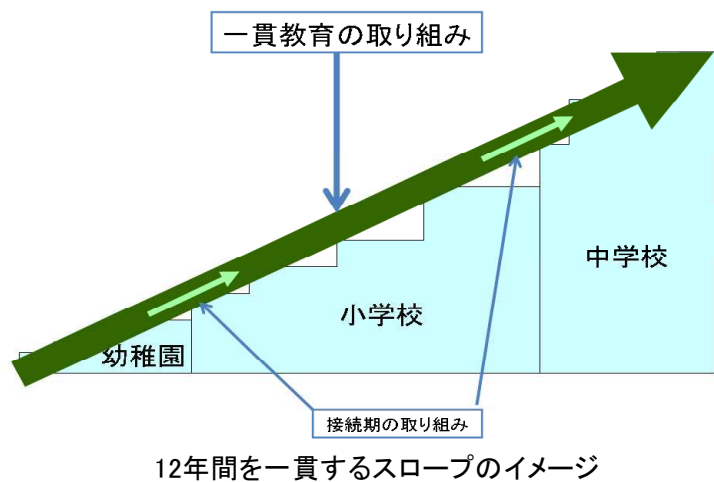
岡山大学教育学部
岡山大学教育学部附属幼稚園・小学校・中学校

考える力を育てることばの教育

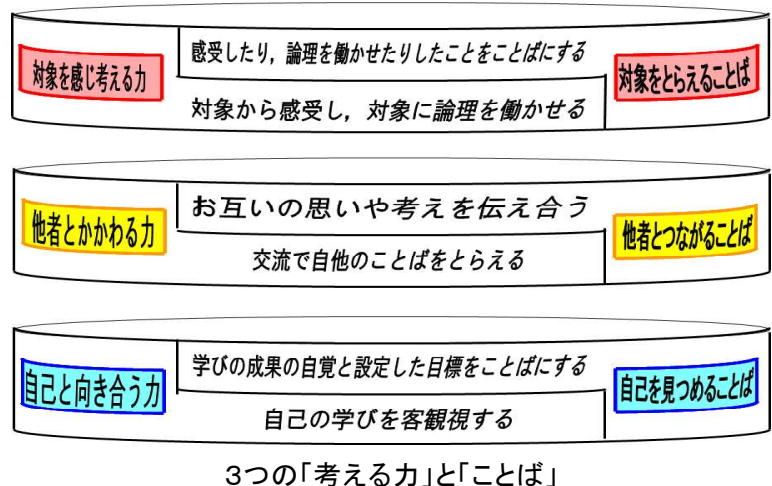
1 研究主題について

わたしたちは、幼小・小中の接続期のみならず、義務教育終了段階を一つの目標地点として、幼小中の12年間を一貫して眺める必要があると考えています。

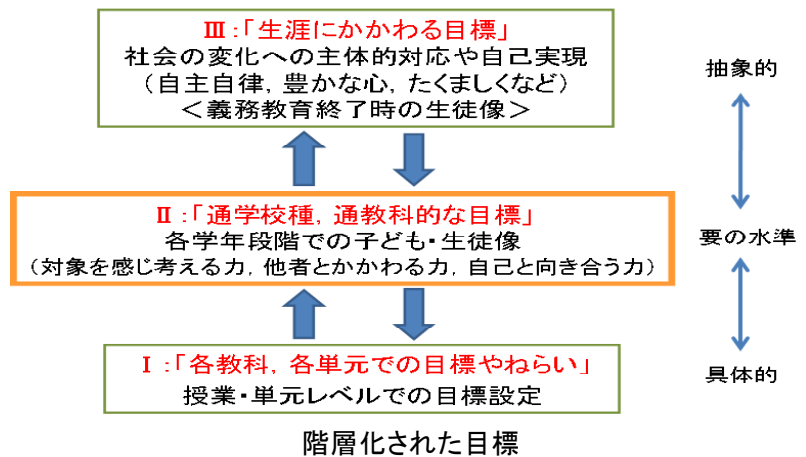
本研究においてわたしたちが目指すのは、子どもたちの生き生きとした学習、子どもたちの真剣なまなざしを求める、「考える力」と「ことば」が結びついた教育です。



わたしたちは、子どもが学習活動の中で対象と向きあったり、互いに思いや考えを交流しあったり、学習を振り返って次の目標を設定したりしていくときに、「考える力」が「ことば」によって形作られ、「ことば」が「考える力」をともなって表れていく「ことばの学び」の姿を目指しています。



この3つの「考える力」と「ことば」を一貫教育の視点から、どの学校園でも、どの教科等でも、どの学習指導の場面でも、系統的に、総合的に育むことを通して、義務教育終了時の生徒像に迫っていく教育を構想することが可能になると、わたしたちは考えています。



2 一貫教育における「ことば」

本校園の求める「ことば」とは、話す、書くなどするとき用いる私的な「言葉」やより公的な「フォーマルな言語」といった「言語」だけでなく、考え、伝えるときに必要なボディランゲージ、イラスト、スケッチ、音、等といった「非言語」も含めた全ての媒体を指しています。さらに、子どもの学びの中に存在する、グラフ、表、地図、図解、チャート図、等も含めて「ことば」としてとらえています。

そこで、わたしたちは、学びにおけるすべての言語活動で用いる媒体を、敢えてひらがなで「ことば」と表記することにしました。「非言語」、「言葉」、より共通性の高い公的な「言語」（フォーマルな言語）を階層的、双方向的関係のものとしてとらえ、中学校終了時には、「非言語」・「言語」を適切に用いて事象や現象を意味付けその意味を深めたり広げたり出来る生徒の姿を目指しています。

3 「ことばの学び」のカリキュラム構想

「ことばの学び」の具体的実現の為には、「考える力」と「ことば」のカリキュラムを構想することが課題となります。その下地になるとともに、わたしたちの日々の教育活動に対する地図のような役目を果たすものとして、「考える力とことばの発達ステージマップ」を設定することにしました。

ステージ	ステップ	対象をとらえることば	他者とつながることば	自己を見つめることば
I 期(幼稚園入園期)	各期の中に必要に応じてステップを設ける	対象をとらえることばを通して、対象を感じ考える力が育つ姿	他者とつながることばを通して、他者とかがわる力が育つ姿	自己を見つめることばを通して、自己と向き合う力が育つ姿
II 期(幼稚園)				
III 期(幼小接続期)				
IV 期(小学校)				
V 期(小中接続期)				
VI 期(義務教育完成期)				

I (3歳児)
II (4歳児から5歳児前半)
III (5歳児後半から小学1～2年生)
IV(小学2～3年生から4年生)
V(小学5年生から中学1～2年生)
VI(中学2～3年生から義務教育終了時)

考える力とことばの発達ステージマップ